

令和7年11月19日付【環境新聞】

会長 中西 新二<安全・安心な上下水道事業持続のための担い手に>



全国上下水道コンサルタント協会会長

中西
新二

琵琶湖・淀川流域の水道で
かび臭い下りハロメタノなど
の発がん性の微量有機物質対
策が1990年頃から始まり
ました。高度浄水施設（オゾ
ン処理、粒状活性炭処理）の
導入による対応ですが、その
業務に10年間関わりました
。当時、国内では導入実
績が少ないので、導入検討の
参考とするため先進的な大阪
地域の事例調査にも行きまし
た。今、振込器と水コンサー
ルタント技術者としてデータニ
ングポイントとなったりして
います。環境との関わりで
思い出に残っている豊富
な経験でした。

安全・安心な上下水道事業 持続のための担い手に

いま残るる環境問題としては、気候変動と有機・無機化合物（P·F·A·S）です。気候変動は、上水道の漏水、下水道の漏れ、下水道管に起因する道路陥没、水道管からの漏水などを大規模な事故が発生し、下水道の使用制限、断水、交通規制などの市民生活への影響が生じています。

地盤変動が要因となる
気候変動の緩和のため、上下
水道事業では、省エネルギー

います。

P·F·A·Sは、永遠の化合物

化、再生可能エネルギーの導入、廃棄物のリサイクルなど

が、

資源と呼ばれ、除去が難しい物

質です。水道だけではなく下水

道からも検出され、下水汚

泥源の有効活用においても

課題となっています。P·F·A·S除去について、現有技術

での対応が進める

が、完全な除去が可能で、イ

ンシャルおよびランニングコ

ストが経済的であると水処理

システムの開発が必要にな

っています。

また、社会問題としてば

水資源の枯渇化が喫

緊の課題となっています。上

水道分野では、水管網の崩

壊による可能性があります。

このように、上下水道事業

は、さまざまな課題を抱えて

いる

も新たな化学物質の問題が

あります。P·F·A·S汚染の問

題は、10年ほど前から注目さ

れるようになりました。今後

も新たな化学物質の問題が

発生する可能性があります。

このため、上下水道施設の

計画的な更新、上下水道シス

テムの再構築を進める必要が

あります。P·F·A·S汚染の問

題は、10年ほど前から注目さ

れるようになりました。今後

も新たな化学物質の問題が

発生する可能性があります。

このように、上下水道事業

は、さまざまな課題を抱えて

いる

私たちは、問題の